

れば、いにしへは怡土郡に屬せしを、近代志摩に入れしにや、いぶかし、凡怡土志摩は、その地相な
らび隣りて、國の西裔にあれば、おなじくつらねて怡土志摩と稱す、然れば怡土郡は山川そなは
り、新材多く、平原ひろくして良田多し、此郡は海に近くして所々に漁家あるゆへ鮮魚多し、海味
ともしからず、運送の便よしといへども、山に林木なくして、柴薪材木ともし、山間及海濱に村里
多くして、平原すくなく、地やけて良田すくなし、たゞ麥豆によろし、川小にして水災なし、怡土郡
に比しがたきのみにあらず、國中の諸郡にたくらぶるに、最下郡とすべし、

〔日本書紀推古二十二〕十年四月戊申朔、將軍來目皇子到于筑紫乃進屯島郡、而聚船舶運軍糧、

〔東大寺正倉院文書三十八〕筑前國太寶二年戸籍

筑前國島郡戸籍川邊里 太寶二年

戸主卜部乃母曾年肆拾玖歲 正丁 謨戸○下

〔續日本紀清和元明〕和銅二年六月乙巳、筑前國御笠郡大領正七位下宗形部堅牛、賜益城連姓、島郡少領
從七位上中臣部加比中臣志斐連姓、

〔三代實錄二〕貞觀二年正月廿二日己卯、太宰府言、筑前國志摩郡兵庫鼓自鳴、庫中弓矢有聲、聞外
〔筑前國續風土記十九〕早良郡

此郡福岡城下の西に有て近し、福岡の城も町の方三分が一は早良郡に屬せり、此郡北に海
ありて、三方高山あり、廣平の村里多く、水田多し、中に早良川流る、故に山林河海そなはりて、薪材
乏しからず、魚鹽多し、河水多けれども、滯なくして水旱の患稀なり、されども平田は肥饒ならず
して、種植豊ならず、凡此國の内那珂筵田、表粕屋、御笠、夜須、下座、上座の七郡は、南北に境つらなり
て、其間に山隔たらず、嘉摩、穂波鞍手、遠賀四郡も又亥かり、宗像、裏粕屋は、東西並びつゝけり、怡土、
志摩兩郡も南北に地つらなれり、只早良郡のみ、東西南三方には高山有て、他郡にへだり、北は